

クラウドファンディング募集中

志賀直哉邸跡書斎修復



地域のたから
「我孫子遺産」
が輝く未来へ

手賀沼のほとりにたたずむ志賀直哉邸跡書斎。ここで小説家、志賀直哉は長編小説「暗夜行路」を執筆しました。書斎がある緑雁明緑地を訪れると、崖下の池や書斎から、我孫子での志賀の生活を彷彿とさせます。

我孫子市にとって大切な「我孫子遺産」を未来につなぐため、クラウドファンディングにご協力をお願いします。

募集期間：9月1日（水）～

令和4年1月5日（水）



さとふる

さとふる クラウドファンディング 志賀直哉



さとふる
クラウドファンディング
ホームページ



問い合わせ：我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課 04-7185-1583

●●● 志賀直哉（生没 1883~1971）とは ●●●

明治・大正・昭和に活躍した小説家です。雑誌『白樺』を柳宗悦・武者小路実篤などの仲間とともに刊行し、「白樺派」と呼ばれるグループに属する小説家でした。多くの作家に影響を与え、芥川龍之介や菊池寛などからも評価を受けています。

作風としては「写真の名手」であり、鋭く正確に捉えた対象を簡潔な言葉で表現しているとの定評があります。（写真中央和装の男性が志賀直哉：白樺文学館蔵）



●●● 我孫子と志賀直哉とは ●●●

志賀直哉が我孫子にやってきたのは大正4（1915）年。白樺派の文人であり、哲学者であった柳宗悦が、彼の住んでいた我孫子への移住を誘ったのがきっかけでした。志賀直哉は我孫子に約7年半住みました。

志賀直哉は我孫子で代表作「和解」「城崎にて」「暗夜行路」などを執筆しました。なかでも、「雪の日」「雪の遠足」「十一月三日午後の事」は我孫子での生活を書いた短編小説は、当時の我孫子の様子を再現する資料としても価値があり、彼が「小説の神様」であったことがうかがえます。

●●● 志賀直哉の書斎について ●●●

書斎は志賀直哉本人が設計に深く関わり、我孫子の大工、佐藤鷹蔵により大正10（1921）年に建てられました。この書斎で志賀は「暗夜行路」を執筆しました。現在は市の指定文化財となっています（平成23年市指定）。

木陰の多い緑地内には、志賀直哉直筆の母屋間取図をもとに原寸大の平面図を復元しました。ベンチが置かれ、ゆったりと時を過ごすことができます。また、文人たちとのエピソードや白樺派と我孫子、ここで書かれた小説などの説明板が配置され、我孫子での志賀直哉の様子を紹介しています。

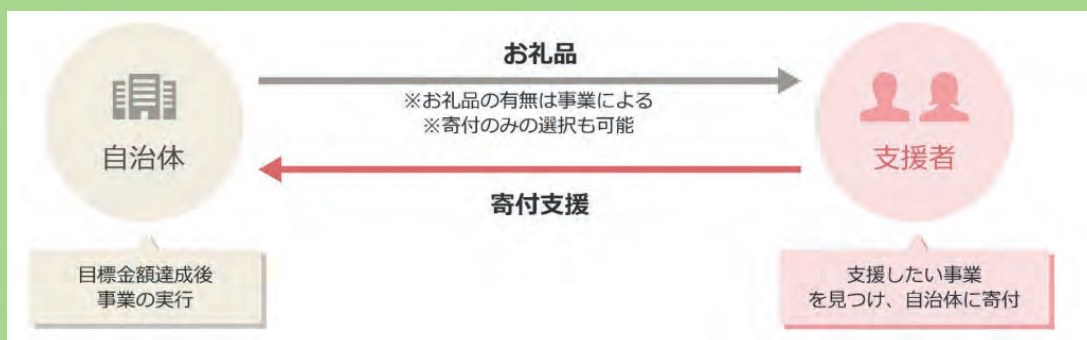


●●● 書斎修復工事について ●●●

今回のプロジェクトでは、志賀直哉邸跡書斎を修復します。修復箇所は、建物内部では天井・壁・障子などで、外部では軒ひさし・濡縁などです。志賀直哉は書斎の建築時に、できるだけ高級な木材を使わず木の肌や虫食い跡などを活かした簡素な建物づくりを目指したと伝えられています。その思いを踏まえて、修復に際しては現在使われてる木材などはできるだけ活用し、志賀直哉が使用していた当時の雰囲気壊さないよう細心の注意を払って行います。

●●● クラウドファンディングとは ●●●

ふるさと納税は、地方自治体への寄付を通じて地域創生に参加できる制度のことをいいます。その中でも、「文化遺産を修繕したい」というように、用途を明確にして寄付金を募集しているものを「クラウドファンディング型ふるさと納税」と呼んでいます。



さとふるのクラウドファンディングでは、ふるさと納税を活用するため、寄付後に所得税の還付や個人住民税の控除が受けられます。

●●● クラウドファンディングの流れ ●●●

事業を選ぶ

「さとふる クラウドファンディング 志賀直哉」で検索！



寄附支援を申し込む



寄附の証明書を受け取る



確定申告をする

